



令和4年4月28日

各位

会社名 燦キャピタルマネージメント株式会社
 代表者名 代表取締役社長 前田 健司
 (コード番号：東証スタンダード2134)
 問合せ先 管理本部 総務部長 河野 美和子
 (TEL. 03-6452-9626)
 URL <https://sun-capitalmanagement.co.jp>

資金使途の変更に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、令和3年5月20日に発行いたしました第12回新株予約権（行使価額修正条項付）の資金使途について、変更することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 変更理由

当社は、本日付「第三者割当による第13回新株予約権及び第3回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行価額の払込完了のお知らせ」にて公表しましたとおり、第13回新株予約権及び第3回無担保転換社債型新株予約権付社債（以下、総称して「本資金調達」といいます。）の発行価額の払込が完了いたしました。本資金調達の資金使途において、当社が発行した第12回新株予約権の行使による調達資金と重複する資金使途があるため、資金使途の枠を一部変更することといたしました。

2. 変更の内容

資金使途の変更内容は以下のとおりであります。（変更箇所は下線で示してあります。）

<変更前>

【新株予約権の行使により調達する資金の使途】

具体的な使途	支出予定額	支出予定時期
①クラウドファンディング事業等 (ii) 不動産投資及びクラウドファンディング事業 ■ 函館山ホテル取得資金 ■ 函館山ホテル改装及び備品購入並びに運転資金 ■ 鹿野温泉別荘地土地取得及び建築資金 ■ 新大村駅前開発用地一部取得資金 (iii) 太陽光発電事業におけるID取得資金	7百万円 <u>250</u> 百万円 240百万円 100百万円 47百万円	令和3年5月～令和3年8月 (全額支出済み) 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 (内、5百万円支出済み)
②「地方創生・地域活性化」及び「SDGs」に関連する事業会社（プリンセスライン株式会社）への投資及び融資資金	200百万円	令和3年5月～令和5年5月 (全額支出済み)
③「地方創生・地域活性化」及び「SDGs」に関連する事業会社（株式会社フォレストシステム）への投資及び融資資金	282百万円	令和3年7月～令和3年12月 (全額支出済み)



④当社及び当社子会社の既存事業の運転資金	202 百万円	令和3年5月～令和5年5月 (内、199 百万円支出済み)
⑤子会社セブンスターの増資への払込	21 百万円	令和4年2月 (全額支出済み)
⑥訴訟における解決金	536 百万円	令和3年12月～令和7年4月 (内、99 百万円支出済み)
合計	1,885 百万円	

<変更後>

【新株予約権の行使により調達する資金の使途】

具体的な使途	支出予定額	支出予定時期
①クラウドファンディング事業等 (ii) 不動産投資及びクラウドファンディング事業 <ul style="list-style-type: none"> ■ 函館山ホテル取得資金 ■ 函館山ホテル改装及び備品購入並びに運転資金 ■ 鹿野温泉別荘地土地取得及び建築資金 ■ 新大村駅前開発用地一部取得資金 (iii) 太陽光発電事業における ID 取得資金	7 百万円 50 百万円 240 百万円 100 百万円 47 百万円	令和3年5月～令和3年8月 (全額支出済み) 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 令和3年5月～令和5年5月 (内、5 百万円支出済み)
②「地方創生・地域活性化」及び「SDGs」に関連する事業会社（プリンセスライン株式会社）への投資及び融資資金	200 百万円	令和3年5月～令和5年5月 (全額支出済み)
③「地方創生・地域活性化」及び「SDGs」に関連する事業会社（株式会社フォレストシステム）への投資及び融資資金	282 百万円	令和3年7月～令和3年12月 (全額支出済み)
④当社及び当社子会社の既存事業の運転資金	763 百万円	令和3年5月～令和5年5月 (内、199 百万円支出済み)
⑤子会社セブンスターの増資への払込	21 百万円	令和4年2月 (全額支出済み)
⑥訴訟における解決金	175 百万円	令和3年12月～令和7年4月 (内、99 百万円支出済み)
合計	1,885 百万円	

3. 今後の見通し

第12回新株予約権の残存個数（株数）は76,198個（7,619,800株）ですが、当社株価の低迷により、想定される新株予約権の未行使分の残額は約220百万円（下限価額29円での行使想定）であることから、220百万円の資金は、本調達資金との重複及び支出済分を差引いた訴訟における解決金76百万円、本資金調達との重複分を差引いた函館山ホテルの運転資金50百万円、当社及び当社子会社の既存事業の運転資金94百万円の充当を優先したいと考えております。

以上